




2018年(平成30年)9月30日(日) NO 126号

# K-PURO NEWS






## 【事業所】

◆	商号	株式会社 ケイプロ	<a href="http://www.k-puro.co.jp">http://www.k-puro.co.jp</a>
◆	屋号	都市防犯プランニング社	mail <a href="mailto:info@k-puro.co.jp">info@k-puro.co.jp</a>
◆	本社	埼玉県蕨市中央 1-7-1 シティタワー蕨	TEL 048-446-9445
◆	千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

## 【業務内容】

	機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
	防犯カメラ事業	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
	メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い

## 【加盟団体】

	RID2770	川口モーニングロータリークラブ	<a href="http://kawaguchi-morning.jp/">http://kawaguchi-morning.jp/</a>
	NPO 法人	さいたま起業家協議会	<a href="http://www.saitama-kk.org/">http://www.saitama-kk.org/</a>
	公益社団法人	千葉東法人会	<a href="http://www.chibahojin.jp/">http://www.chibahojin.jp/</a>
	一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	<a href="http://www.rinri-chiba.org/">http://www.rinri-chiba.org/</a>
	公益財団法人	モラロジー研究所	<a href="http://www.moralogy.jp/">http://www.moralogy.jp/</a>

## 【応援団体・企業】



## 今月の言葉



人にはそれぞれに違いがあります。  
その違いこそが、その人だけが持つ素晴らしい個性なのです。  
何事も「皆と同じでなければ」という思いにとらわれることなく、まず一人ひとりの違いを知り、その違いを大切にしながら、皆が満足できるようなあり方を考えたいものです。  
人を思いやる気持ちとは、その中で育っていくのです。  
子供たちが自分の個性を尊重する態度を身につけたなら、違いを見下げたりねたんだりすることから始まる「いじめ」もなくなるのではないのでしょうか。

## 今月の良い話

## 私の座右の書

中国古典に「曲礼」（きょくらい）という『礼記』（らいき）の一篇があります。

「曲」というのは「くわしい」という意味です。

その「曲礼」の中に「年齢」のことが書いてあります。

人生まれて10年を「幼」という——学ぶ。（教えを受ける年齢ということです）

20を「弱」という——冠す。

（冠をつける年齢だということですが、

「弱冠」というのはここからきたようです）

30を「壮」という。 40を「強」という。

50を「艾」（がい）という。

60を「耆」（き）という。 70は「老」という。

80、90を「耄」（てつ）という。



.....  
30代はエネルギーが旺盛です。まさに壮です。

40になると、それがさらに強くなる。

50は「艾」（がい）。艾というのは、頭に白いものがまじってくるという意味のようです。ごま塩頭というやつですね。

ただ、艾には、刈り取るという意味もあるようですが、30代、40代は意気盛んである故に、いろいろなムダなものをつけている。

そういうムダなものを取り去り、省いていく、そういう年齢だということだと思います。

.....  
そして60は「耆」（き）。これがおもしろいですね。「老」の上の字に「旨」で「き」といいます。「旨」というのは「うまい」ということです。

「うまい」というのは、あまいとか酸っぱいとかという単純な味ではない。

5つの味をミックスした、たとえようのないデリケートな味のことをいいます。

だから、これに手へんをつけると、「指」——指というのは独得のデリケートな働きをしますね。魚へんをつけると、「鮓」——独得のうまい食物です。

つまり、「耆」というのは、人生のあまいもからいも、あらゆる体験を通して、なんともいえない人間の風味がでてくる年齢だということですが、

この伝でいえば、60代は人生の黄金期といえそうですね。

70は「老」。これは「老い」という意味もありますが、「練れる」「熟する」という意味もあるのです。「耆」がさらに練られ、熟していく年齢です。

そして、80、90は「耄」。「老」——すなわち「練」がさらに至るということですが、

.....  
こう考えると人間の一生は楽しいものです。

「曲礼」が教えるように、年を取りたいものです。そのためにも「修養」です。

『致知』を通じて、人間学の学びを共に深めていきましょう。

ちなみにこの「曲礼」のことは伊與田覺著『「人に長たる者」の人間学』に出ています。

この本は私の座右の書です。古典を語ってこれほどおもしろい本はなかなかありません。

/////////  
藤尾 秀昭（致知出版社社長）

記事提供 致知出版社

## 今月の良い話

## もろくはかない、社長の自信

私には会社を潰した経験があります。

その後は人生で最も自分（自信）を見失っていた期間でした。

私は頭が悪く、性格も暗く、トリプルできない（勉強できない・運動できない・友達できない）子供だったのですが、不思議なことに自信を失くした記憶がありません。

自信というより、自己肯定感に近いものだったのかもしれませんが。

自分は価値のある存在である。自分の人生はきっとうまくいく。

何の根拠もない、そのような自己肯定感が私にはあったのです。

それは生まれ持った性格のようなもの。

どんなに成績が悪かろうが、走るのが遅かろうが、自分を見失うことはなかったのです。

その強固な自己肯定感が崩れ去ったのが、今から7年前。

しかし、それは一瞬の出来事ではありませんでした。

会社が潰れても、社長でなくなっても、自己破産しても、90%くらいの自信は残っていたのです。

それは20年間社長をやってきた中で蓄積してきた自信。

でもその自信と自己肯定感は、1年ほどかけて少しずつ、少しずつ、損なわれていきました。



社長でなくなってから1年が過ぎた頃、私は自分の中にあっちはずの「決定的な何か」が無くなっていることに気が付いたのです。

それは私が私であるための理由みたいなもの。

自分の存在を肯定してくれる根っこのようなもの。

人生で初めて自分を失い、私は全くエネルギーが出なくなりました。やる気はあるけど力が入らない。

何をやっても、こんな事に意味があるのか、価値があるのかと、自分を疑い始めるのです。

お金がなく、所属先がなく、見通しも立たない。

そのような状況に陥ったとき、社長時代の実績や自信など何の支えにもなりません。

書籍が30万部売れたことも、200人の社員がいたことも、何の意味ももたらさないのです。抜け殻のようになった私が、最終的にたどり着いた答え。

自信と存在を取り戻せた唯一の場所。

それは、自分ではなく誰かのためにやった仕事でした。

人に喜ばれ、ほんの少しでも感謝され、価値を認めもらえる。

その微かな実感、小さな積み重ねが、私という存在を再び形づくってくれたのです。

安田 佳生（元ワイキューブ社長）

記事提供 日経トップリーダー

事件ファイル NO126

警察用語(抜粋)

刑事のことをデカと呼ぶのは一般的に知られていますが、その意味を知っている人は少ないと思われます。今回は少しですが、警察用語とその意味を取り上げてみました。

- デカ → 明治時代、刑事は警官の制服ではなく角袖の着物を着ていたことから。「かくそで」の倒語「でそくか」の最初と最後を取ってデカと呼ぶようになった。
- 赤馬、赤犬 → 放火犯。炎の形が馬や犬に見えることから。
- 赤詐欺 → 結婚詐欺や結婚詐欺師の事。
- うかんむり → 窃盗、「窃」の字形から。実際は「あなかんむり」だが読み違えたもの。
- 歌う → 自白すること。ゲロとも。
- 牛の爪 → 牛の爪は「割れている」ことから、判明していること。
- 馬の爪 → 馬の爪は逆で「割れていない」ことから、判明していないこと。
- ガセ → 偽情報。騒がせの略。
- ゲバ → 乱闘・武力抗争。語源はドイツ語のゲバルト(暴力)から。
- コメヘン → 精神異常者。「精」の字のこめへんから。マルコメとも言う。
- ごんべん → 詐欺、「詐」の字のごんべんから。
- さんずい → 汚職、特に贈収賄。「汚」の字のさんずいから。
- フライパン → カツアゲ=恐喝。「カツを揚げる」道具から。
- ヨコ → 横領。
- ラジオ → 無銭飲食。ラジオ=無線に掛けた洒落。
- ロク → 死者・死体。南無阿弥陀仏の六文字を指す。ほとけ(仏)とも。

プロ太の小話集 NO126

『ジグソーパズル』

ジュンがチームメートにジグソーパズルを見せびらかし、

「オレって天才だよ。普通にやれば、3年はかかるヤツをたった3カ月で完成させたもんね。」と自慢した。

ジグソーパズルの箱をみると「3y e a r s」。 (3歳児用)



//////////  
今月のK-PURO ニュースいかがでしたか？

このニュースにも多く引用させていただいている「月刊致知」の創刊40周年記念講演およびパーティーに友人と参加してきました。

iPS細胞でノーベル賞を受賞した山中伸弥教授と元トヨタ自動車名誉会長の張富士夫氏、そして主催の藤尾社長の講演、また日本を代表する企業や業界のトップの方々の来賓あいさつ、参加者は1,600名と盛大のひと言。日ごろ書面で感銘を受け、ぜひお会いしたかった文学博士の鈴木秀子先生とも少しの間ですが言葉を交わせた時間は私の宝物。人は何のために生きるのか、何のために働くのか。人間学を学ぶ月刊誌「致知」。40周年おめでとうございます。

注：プロ太とは、写真のK-PURO番犬です (体長10メートル・体重1トン・無敵無敗)